

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(伏見住吉小学校)

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・各種指標
確かな学力	安心・安定、主体的に学習に臨んでいる	国立教育政策研究所「教育課程研究指定校事業」(幼小接続)2年次の指定を受け、研究授業を全学年で行う	・楽しく学校に通っていますか ・授業は楽しいですか
	基礎的な学習内容を理解する	チャレンジタイムの帯時間を徹底し、算数の基礎問題による予習・復習をすすめる。机間巡視の共通理解、徹底を図る	児童の話す・聞く態度 ジョイントプログラムの結果
	家庭学習の習慣を身に付ける	学校・学級だよりでの啓発 多様な家庭学習の仕方の紹介	毎日家庭学習ができていますか
豊かな心	友達との人間関係を大切に する	CSSを実践し、毎月振り返る	友達と仲よくできていますか
	自ら挨拶できる 態度を身に付ける	生指部・PTA・児童会による朝の挨拶運動などに呼びかけを定期的に行う	自分から挨拶をしていますか
健やかな体	基本的な生活習慣の確立	早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ	「早寝・早起き・朝ごはん」・排便・歯みがきの生活リズムが身についていますか
	安全教育の充実	安全ノートの活用、地域と協力して行う子ども110番の家訪問他、今年度は自転車教室にも取り組む	危険から身を守り、安全に生活することができていますか
独自の項目	情報発信の充実	積極的なホームページの更新	学校ホームページへのアクセス数

・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年9月21日
	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
「楽しく学校に通うこと」が1.2p減で低学年ほど実現度が低い状態	「基礎的な学習内容を理解すること」は昨年度の課題として、授業の改善、チャレンジタイムでの基礎学習の徹底に努め、基礎的な学力の定着が見られるようになった。しかしながら保護者・教師ともに「話をしっかり聞く」「分かりやすく話す」「自分の思いや考えを書く」といった項目に課題を感じている。	地域からも指摘されている「場に応じた言葉づかい」を含め、一人一人の子どもが主体的に学び、活動できるよう努め、思わず自分の考えを話したくなる、人の考えと自分の考えを比べて聞きたくなる授業になるよう、基礎学力同様、授業改善をめざす。若手道場なども活用し、指導力向上に努める。
「基礎的な学習を理解する」という項目で、平均7.3p(0.8p増)	「読書の習慣を身に付けること」5.9p「家庭学習の習慣を身に付けること」6.1p	
保護者からは「楽しく学校に通うこと」等の評価が昨年度よりも上がっているが、児童自身の自己実現度はそれぞれ1p以上下がっている。	「進んであいさつをすること」「場に応じた言葉づかいをすること」で、1p以上下がっている。	学習面では「楽しく学校に通うこと」が1.2p減で低学年ほど実現度が低い。幼小接続を意識した授業が、一人一人の子どもに届くよう、より意識した授業を進めなければならない。また前期はクラス替えがあり、新しい友達との関係に悩んだ子ども多いことがあげられる。
前期終了後の生活チェックの結果、就寝時刻の目標を達成できている児童は51%、起床時刻の目標は67%朝食を食べている児童は97%	昨年度(後期)と比べて1ポイント以上、上がったのが「危険から身を守り、安全に生活すること」で8.6p	生活習慣は物事の優先順位や時間の区切り、家族内の協力体制などを啓発していき、改善に努める。「運動に親しませ、運動能力を向上させること」は昨年度同様、高学年の朝ラニングや各部活動、中間休みや昼休みに元気に運動していくことを継続して取り組んでいく。
学校評価(前期)の評価は7.5pと高い評価である。アクセス数は最大566平均49.8である。	日々の更新が、保護者にも伝わり、アクセス数が上昇しているようである。更新内容も各学年から発信できていることが関係している。	今後もHPを通して学校の様子が伝えられるよう、日々の更新を心がける。

学校関係者評価	
評価日	平成28年9月26日
評価者 (いずれかに)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
「学校・保護者・地域が連携して子ども達を育てること」8.3p(0.7p増)、「学校が児童の学力向上に向け取り組むこと」7.7p(0.8p増)となど、高い評価は今後も継続してほしい。	児童からは昨年度同様、読書の習慣の実現度が低く挙げられている。朝読書の時間にしっかりと読書が定着するよう、学年から1名は朝読書の時間に子どもと一緒に読書をしたり、地域の方や図書ボランティアの方による読み聞かせを引続きお願いしたりするなど、みんなで読書に親しむ時間の確保に努める。
昨年度同様「子どもたちが、進んであいさつをすること」が課題である。昨年度後期から1p増、昨年度前期から1.4p増と、いまだ実現度は低いものの上昇傾向にある。地域の実現度の平均は0.2p上昇の6.7p、今後も働きかけなければならない。	「挨拶」に関しては今年度、PTAによる挨拶運動を休み明けを中心に、回数を増やすなど計画的・積極的にしている。また教職員による挨拶も定期的に行い実現度は微増ながら上昇している。今後とも、大人が見本となって挨拶をすること、「挨拶」への啓発活動を児童自身にも投げかけ、取り組むことで意識を高められるようにする。
昨年度低い項目であった「子どもたちが危険から身を守り、安全に生活すること」が0.7p上昇の6.6p、昨年度の前期評価から比べると2.3p増となっている。今後も続けて啓発活動を行う。	10月には学校運営協議会主催の「自転車教室」、11月には住吉安心安全町づくり協議会主催の「伏見住吉子ども110番の家ウォークラリー」を行う。今後も学校・地域・保護者全員で子どもの安全意識をより高められるようにする。
HPや学校便りなどを通して、今後も学校の様子、地域の活動を発信してほしい。	学校の取組を発信する際、学校運営協議会や、安心・安全町づくり委員会など主催者を記載し、学校・保護者・地域が一丸となっていることをアピールしていく。

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(伏見住吉小学校)

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた)年度末までの取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標
確かな学力	安心・安定、主体的に学習に臨んでいる	国立教育政策研究所「教育課程研究指定校事業」(幼小接続)2年次の指定を受け、研究授業を全学年で行う。	単元に入る前の独自アンケート「授業は楽しいですか」、ジョイントプログラムの結果
	基礎的な学習内容を理解する	チャレンジタイムの帯時間を徹底し、算数の基礎問題による予習・復習をすすめる。机間巡視の共通理解、徹底を図る。	児童の話す・聞く態度 学校の学習がよく分かること ジョイントプログラムの結果
	家庭学習の習慣を身に付ける	学校・学級だよりでの啓発 多様な家庭学習の仕方の紹介、学校図書館の積極的な活用	毎日家庭学習ができていますか
豊かな心	友達との人間関係を大切に	CSSを実践し、毎月振り返る	友達と仲よくできていますか
	自ら挨拶できる態度を身に付ける	生指部・PTA・児童会による朝の挨拶運動などと呼びかけを定期的に行う 教職員人権劇実施	自分から挨拶をしていますか
健やかな体	基本的生活習慣の確立	早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ 生活習慣アンケートによる啓発	「早寝・早起き・朝ごはん」・排便・歯みがきの生活リズムが身についていますか
	安全教育の充実	安全ノートの活用、地域と協力して行う子ども110番の家訪問他、今年度は後期に自転車教室にも取り組んだ	危険から身を守り、安全に生活することができていますか
独自の項目	情報発信の充実	積極的なホームページの更新 学校評価の発信	学校ホームページへのアクセス数 運営協議会での話し合い

・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年3月3日
	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	分析を踏まえた改善策
「楽しく学校に通うこと」の実現度が1p以上上昇 ジョイントプログラムは、どの学年も上昇、クラス間の差も縮まった。	全体的に実現度は上昇を見せ「楽しく学校に通うこと」が1p以上も上がっている。ジョイントプログラム等、学力が少し向上した結果、学習への理解への実現度も高く、進級・進学に向け充実感や自信が伺える。 読書の定着やきれいに掃除する態度を培うことが、今後の課題であり「一緒に本を読む」、「一緒に掃除をする」など、様々な機会をもうえ働きかけが必要がある。	学力向上が前期より少し上昇したが高い実現度とは言えない。全市で行ったプレジョイント・ジョイントプログラムでは学力が向上していることが伺えるが、今後その学力を活かした授業を展開し、教師の学力定着への実現度を高められるようにしたい。
前期と異なり保護者からは「楽しく学校に通うこと」等の評価が下がっているが、児童自身の自己実現度は1p以上、上がっている。 児童の「進んであいさつをする」とは6.9と1p以上、上がっている。「場に応じた言葉づかいをする」と、6.7で、0.8p上昇している。	「なかよく協力し合って学校生活を送っている」が1p以上下がっている。進級・進学を控えた時期からソワソワした雰囲気の中、友達に対して横着な言動がみられ、特に場に応じた言葉づかいに課題を感じている。 児童の様子では登下校のマナーや挨拶、交通安全への意識に課題を感じている。	CSSのさらなる充実をめざした研修をする。 学校では「さん」づけを指導し、優しい関わり方をしあえるよう教師自身も見本となって促している。課題は保護者とも共有し、継続的に丁寧に対応し、今後に生きた指導になるよう心がける。
冬休み明けに実施した「早ね・早おき・朝ごはんチェック」では、早ねは約4.9%、早おきの児童は約6.5%、朝食を食べている児童は約9.7%の割合で達成していた。 「危険から身を守り、安全に生活すること」は前期と比べて保護者が0.2p増、地域が0.9p減、教師が0.2減となった	夏休み明けの結果と比べると、早ね・早おきの目標達成率が少し下がっており、年末年始の生活リズムの崩れや冬の寒さで起きにくい様子などの感想が多くみられた。 朝会や避難訓練での防災・防犯に関する啓発や、PTA・地域行事(自転車教室)を通しての啓発が、実を結んでいる。	次年度は自転車教室を授業の中でを行い、どの子ども安全に対する意識を高め実践できるようにする。 また薬物乱用防止教室や万引きに対する授業を警察の方を講師に招き参観日に行い、子どもへのかわりの一助となるようにする。
地域や教師の実現度は高い。保護者は前期から下が7.6p(0.3p減)である。アクセス数平均51.1(1.3増)	日々の更新が、保護者にも伝わり、アクセス数が上昇しているようである。更新内容も各学年から発信できていることが関係している。	今後もHPを通して学校の様子が伝えられるよう、日々の更新を心がける。

学校関係者評価	
評価日	平成29年3月7日
評価者(いずれかに)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
「学校・保護者・地域が連携して子どもを育てる」は全体的に下がっている。PTA総会でも話があったが、共働きの家庭が増える、核家族などからくる家事・育児への多忙感、子どもの多様な休日の過ごし方を踏まえた関わり方を考え、地域・保護者・学校が協力して子どもが育てられるようにしなければならない。	国立教育政策研究所「教育課程研究指定校事業(幼小接続)」では伏見住吉幼稚園との全国発表した公開保育、公開授業に学校運営協議会も参加し、本校の教育活動を知るよい機会となった。 家庭学習や読書の定着は学校だけでなく、保護者も一緒に関わらなければならない。
「進んで挨拶をすること」は以前から課題である。様々な働きかけをし、挨拶を自分からできるようすすめているが、定着できていない。	登校班長があいさつすれば、そのグループはあいさつができるようになる。まずは登校班長に働きかけるようにすべき。 朝の挨拶運動を正門で待つて挨拶するだけでなく、集合場所から一緒に登校し、挨拶するようにしてはどうか。
今年度行った自転車教室は30名ほどの参加であった。今後は授業の中に位置づけることによって、どの子ども学べるよい機会になると考えている。	10月には学校運営協議会主催の「自転車教室」、11月には住吉安心安全町づくり協議会主催の「伏見住吉子ども110番の家ウォークラリー」を行い、地域が安全に対して強く働きかけることができた。
HPや学校便りなどを通じて、今後も学校の様子、地域の活動を発信してほしい。	学校の取組を発信する際、学校運営協議会や、安心・安全町づくり委員会など主催者を記載し、学校・保護者・地域が一丸となっていることをアピールしていく。

3 総括・次年度の課題

前期の評価では児童の実現度が下がり、保護者・地域・教師が上がる傾向でした。後期の評価は、児童が全体的に実現度を上げ、保護者・地域・教師が下がっている。項目でみるとジョイントプログラムの結果でも成果が見られたからか、学力向上に関する項目は全体的に上昇を見せている。下がっている項目の「教育環境整備」は体育館のLED設置、校舎の防水塗装、運動場排水修繕などの改修工事を終えた。トイレや廊下のジョイント部分、池、教室の壁、体育館入口マット設置等、引続き修繕していく予定で、今後も必要な個所の改善に努めていき、保護者、地域の要望に応えられるようにする。「地域行事への参加」、「学校・保護者・地域が連携して子どもを育てる」は全体的に下がっている。共働きの家庭が増える、核家族などからくる家事・育児への多忙感、子どもの多様な休日の過ごし方を踏まえた関わり方を考え、地域・保護者・学校が協力して子どもが育てられるようにする。教師の「学校・PTA・地域行事への参加」に対する実現度が児童・保護者・地域と比べて開きがあることが分かる。今後、どのように関わることが本校児童にとって必要なかを、保護者・地域の皆様の声をいいただきながら、進めていかなければならないと考えている。